

飛鳥資料館のみどころ(14)

展示品解説 その6

「あすかの今昔」

この春、飛鳥資料館のエントランス展示が大幅にリニューアルしました。「あすかの今昔」と題した新展示。「あすか」の現代と飛鳥時代の対比を実感できる、大胆な配置が魅力です。展示コーナーではキトラ古墳から大官大寺にかけての1/500の航空写真を床面に敷き、古代飛鳥の中心部に同スケールの飛鳥京復原模型を置きました。奥の壁面には大和三山を背景とした飛鳥のパノラマ写真があります。いわば、現代の景観から古代の飛鳥を浮かび上がらせたような展示。時代の対比と連続性を実感していただければと思います。

この展示の中心をなす模型は、古代飛鳥の中枢部を、東西900m×南北1650mにわたって復原したものです。南側には橘寺、川原寺の伽藍が見え、その東には天武天皇の飛鳥淨御原宮があります。ほぼ中央には蘇我氏が建立した飛鳥寺の一塔三金堂の伽藍、その西側には石敷の楓木広場が広がります。北側には水落遺跡の漏刻台が建ち、石神遺跡には斎明天皇の迎賓館の建物が並びます。飛鳥

時代から奈良時代にかけて、飛鳥地域に展開した宮殿や建物などのさまざまな施設が一望できます。

この模型は、「飛鳥・藤原京展」の際に、発掘調査の成果に基づいて製作されました。模型の製作から早5年。飛鳥の発掘は現在進行形で、日々新たな発見があります。そこで、この模型は新たな発掘成果を反映させた改造を適宜加えながら「進化する模型」としていきたいと考えています。今回、常設展に展示するにあたっては、近年の発掘成果をもとに、川原寺の北面大垣の位置や、経樓と鐘楼の構造などを変更しました。今後も、発掘調査の新知見を、わかりやすくお見せしていきたいと思っています。
(飛鳥資料館 西田 紀子)



大勢の見学者でにぎわう展示コーナー

記録

埋蔵文化財担当者研修

遺物観察調査過程

6月4日～29日 6名

現地説明会

平城第406次(第二次大極殿院東方官衙地区)

平成19年3月24日(土) 450名

飛鳥藤原第145次(石神遺跡第19次)

平成19年3月31日(土) 1153名

平城宮跡資料館展示

速報展「西大寺食堂の井戸」

平成18年11月21日(火)～5月16日(水)

飛鳥資料館春期特別展

「キトラ古墳壁画四神玄武」

平成19年4月20日(火)～6月24日(日)

キトラ古墳壁画「玄武」特別公開

平成19年5月11日(金)～27日(日)

講演会(NPO平城宮跡サポートネットワークと共催)

平成19年5月20日(日)午後1時～

「平城京寺院の造営 - 木簡からの考察」

館野 和己 奈良女子大学教授

公開講演会(第100回)

平成19年6月16日(土)午後1時30分～

「年輪年代学とデジタル画像技術」

大河内 隆之 埋蔵文化財センター研究員

「西大寺伽藍に迫る - 最新の発掘調査成果から - 」

林 正憲 都城発掘調査部研究員

お知らせ

平城宮跡資料館展示

速報展

「奈良時代の霞ヶ関か - 平城宮東方官衙地区的調査」

平成19年6月1日(金)～7月1日(日)

飛鳥資料館 夏期企画展示

「『とき』を撮す - 発掘調査と写真 - 」

平成19年8月1日(水)～9月2日(日)

発掘調査を支えてきた奈良文化財研究所の写真室。その技術を、貴重な写真資料と機材を通して紹介します。

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <http://www.nabunken.go.jp>

Eメール jimu@nabunken.go.jp

発行年月 2007年6月